

気になるまちの人



53年前に伊奈町に移り住み、塗装業を生業として働いてきた小畑さん。塗装の技術を活かし、仕事の合間に趣味で始めたものが、花台と盆の制作です。着物や帯の端切れを使った新しい手法を用いた繊細な作品で、技能競技大会において幾度も最優秀賞を受賞しています。このほど、これまでの功績が認められ、厚生労働大臣から「卓越した技能者（現代の名工）」として表彰されました。



▲着物や帯の切れ端を使用した花台



もみじの葉を使用したお盆▶

現代の名工

お ば た た だ よ し
小畑 忠義 さん
 （小畑建築塗装）

Q 作品づくりのきっかけは？

20数年前、塗装業の先輩と会津の漆工房に行きました。会津塗の技法による花台や盆の制作は塗装の技能を活かせると思い、趣味で始めました。

それから埼玉県塗装業協同組合で勉強会を開いたり、若い子たちに教えたりして制作の輪を広げていきました。毎年5～6月に10数名集まって、下地作りから教えます。制作はすべて精魂込めて手作業で行い、1点仕上げるのに1年かかります。制作期間が長くなるため飽きてしまう人もいますが、飽きないで一生懸命やればできるので、ぜひ続けてほしいですね。

Q 作品にはどのような特徴がありますか？

お盆の下地は段ボールを圧着したものなので、丈夫で軽いです。さらし（寒冷紗）を貼って、平らになるようにペーパーでこするといった作業を何度も繰り返して仕上げていきます。本物のもみじや貝殻を入れるときは、できるだけ凸凹を少なくするために何度も何度も漆を塗って、埋め込んで平らにします。手間暇がかかりますが、一生懸命やれば、良いものが完成します。

Q 今後の目標はありますか？

これまで50～60点くらい作りました。着物の切れ端を使ったり、工夫すると楽しいです。作っている最中は無我夢中、すべてを忘れて没頭できます。今後も、納得のいく作品を作りたいです。販売は特にしておらず、知り合いにあげたりしています。恥ずかしくて値段は付けられないなあ…。まるっきり趣味です。

Q これまでどのようなお仕事をされてきましたか？

山形から上京し、東京の神田で住み込みで修業を始めたのが15歳の春。それから約65年、長いこと塗装業をしてきました。現在79歳で、2年ほど前に引退し、現場は息子たちに任せています。

53年前、まだ伊奈村の時に独立してここに居を構えました。その間、伊奈村は伊奈町になって、発展していきました。伊奈町は災害も少なく素晴らしい町です。

Q 長年仕事をしてきて、心に残っている仕事はありますか？

今は撤去されていますが、大宮にあった自動車工場の太い煙突に文字を書く仕事です。高さ80mの煙突の一番上の縁をまたいで、ロープを下におろして…命綱もなしでよくやっていました。「富士重工業」「ロビンエンジン」と書きましたね。

また、1964年の東京オリンピックでは、戸田漕艇場で看板を付ける仕事にも携わりました。

Q 『広報いな』をご覧の皆様へメッセージをお願いします。

何事も飽きないで、習得するまで一生懸命に物事がんばってほしいです。勤め人でも、職人さんでも、飽きないで今やっていることを一生懸命に、仕事を覚えて、覚えてしまえば自分で加工して、自分で変幻自在にできます。とにかく続けることが大切です。

発見！ちょっと



スポーツスタッキング 日本代表

なかむら すずな
中村 鈴菜 さん
(南小学校5年生)

幼児から高齢者までできるスポーツで、近年注目されているスポーツスタッキング。12個のプラスチックカップをピラミッド型に積み上げてから崩して最初の形に戻す、そのタイムを1000分の1秒単位で競います。これまで数々の大会で日本チャンピオンに輝き、複数の種目の日本記録保持者である中村さん。2021年11月、「3-6-3」種目で女子世界記録を樹立した中村さんにお話を伺いました。



Q スポーツスタッキングを始めたきっかけは？

父が協会関係者で、大会の際によく2人の兄と一緒にいきました。そこで競技を見て、興味を持ちました。タイムが早い人や日本代表を見て、「すごいな、自分もこんな風になれるかな」と思い、5歳の時に始めました。

Q 実際にやってみて、感想はいかがですか？

見ていると簡単そうですが、いざ自分でやってみると難しく、思うように積めないし、積めたとしたのに崩れたり、理想通りにいかなくて…最初の印象と全然違いました。良い記録が出なくて、あまりやらない時期もありました。ですが、大会に出るたびに練習不足を痛感…それがイヤだったので、練習をしてタイムを早くしようと思いました。

ライバルの子たちを見ていると、すごく上手でタイムが早いです。早い人の音は軽い。カップを持ち上げる幅が小さく、無駄な動きが少ないです。そのように、周囲の選手の様子を見たり聞いたりして学んでいます。

Q スポーツスタッキングを始めて、自分の中で変化はありましたか？

はい、明るく積極的な性格になりました！年上の方や海外の方と関わることが多く、おかげでコミュニケーション力が上がりました！大会の練習スペースでたくさんのスタッカーや海外の選手と交流したりしています。

競技を始めていなかったら、緊張して同世代の子にも話しかけられないし、友達も今ほど多くなかったか

もしれません。スポーツスタッキングに出会って良かったです。

Q 目標としている選手はいますか？

チャン・ケン・ヤン選手（マレーシア）です。世界で一番早い選手で、その選手と私のタイムは、競技によって1～4秒もの差があります。0.001秒を争うスポーツなので、この差はとても大きいです。私も、世界のトップスタッカーに少しでも近づけるように、もっと練習してタイムを早くしたいです。

Q ほかに趣味はありますか？

ダンスが大好きです！ヒップホップやチアダンスなどをしています。スポーツスタッキングとの共通点は、どちらも脳を使うところですね。積み上げたり崩したりする順番を覚えたり、振り付けを覚えたり。中学生になっても、スポーツスタッキングとダンスを続けていきたいです。

Q 『広報いな』をご覧の皆様へメッセージをお願いします。

スポーツスタッキングは、年齢性別関係なく、ハンデがある方も、誰でもみんな楽しんでるスポーツです。個人、ダブルス、親子ダブルス、リレー（団体戦）など種目もいろいろあり、団結力も深まります。とても楽しいので、ぜひ体験してほしいです！

☆「中村さんの技を見たい！」という方は、伊奈町インスタグラムをご覧ください！▶

